

IV

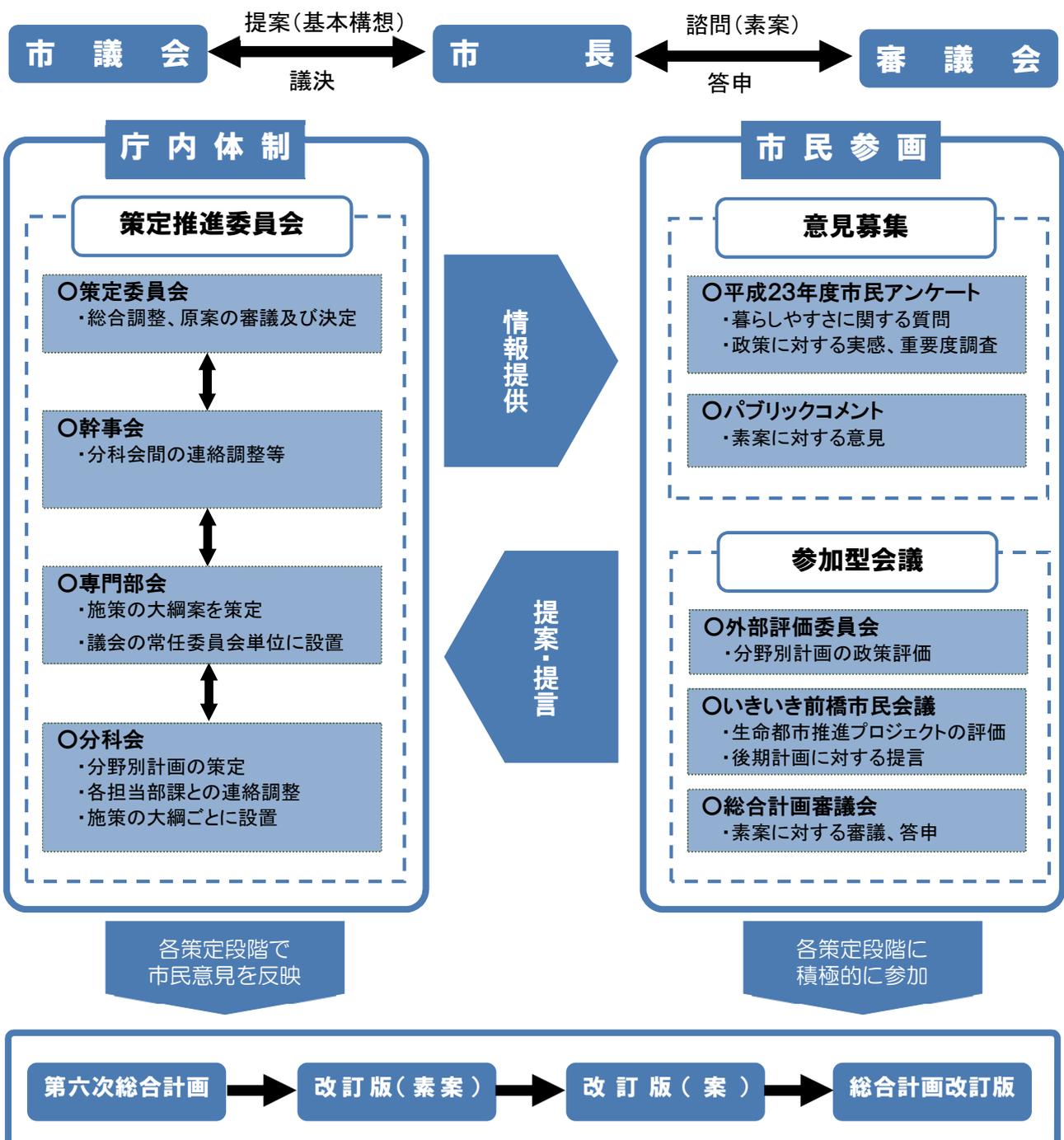
資料編

- 1 策定体制・経過
- 2 市民参画
- 3 補足資料

1 策定体制・経過

▷ 策定体制

- 庁内体制・・・全庁横断的な組織として「前橋市総合計画策定推進委員会」を設置し、第六次前橋市総合計画の見直し及び改訂版の策定に取り組みました。
- 市民参画・・・市民の意見・提案を計画に反映させるため、市民参画の推進に努めました。
- 審議会・・・前橋市総合計画審議会条例に基づき、市長が第六次前橋市総合計画改訂版（素案）を審議会に諮問し、これに対する審議・答申をいただきました。
- 市議会・・・平成19年に議決を受けた第六次前橋市総合計画の基本構想を改訂することから、改訂版の基本構想部分について、改めて議決を受けました。



▶ 策定経過

第六次前橋市総合計画改訂版の策定は、平成23年度から24年度にかけて取り組みました。

年 月 日	主な会議及び概要
平成23年 2月22日	前橋市総合計画策定推進委員会設置
6月22日	第六次前橋市総合計画後期基本計画に関する基本方針
7月	第六次前橋市総合計画後期基本計画策定基礎調査業務 (受託者 株式会社日本経済研究所)
9月	前期基本計画第3編に関する政策評価(内部評価)の実施
9月27日～12月13日	前橋市行政評価外部評価委員会の設置 (前期基本計画第3編に関する政策評価(外部評価))
10月 1日～10月21日	第15回市民アンケート調査
10月	前期基本計画第2編に関する施策評価(内部評価)の実施
12月 1日～ 2月 2日	「いきいき前橋市民会議」の開催(全4回) 前期基本計画第2編に関する施策評価(外部評価) 後期基本計画第2編に関する提案
平成24年 6月 7日	第六次前橋市総合計画の改訂に関する基本方針
10月 2日	第六次前橋市総合計画改訂版(素案)の策定
10月26日	第1回総合計画審議会 (委嘱状交付、総合計画改訂版(素案)の諮問)
11月 9日	第2回総合計画審議会 (序章、基本構想、後期基本計画第1編・第2編の審議)
11月28日	第3回総合計画審議会 (後期基本計画第3編・第4編の審議)
12月21日	第4回総合計画審議会 (答申(案)の審議、総合計画改訂版(素案)への答申)
12月 3日～12月28日	第六次前橋市総合計画改訂版(素案)に関するパブリックコメントの募集
2月	第六次前橋市総合計画改訂版(案)の策定
3月	平成25年第1回定例会市議会へ議案として提出
3月27日	平成25年第1回定例会市議会にて議決

2 市民参画

▶ 外部評価委員会

第六次前橋市総合計画では、計画を着実に推進するため、行政評価を活用した進行管理に取り組んできました。計画の改訂にあたっては、それまでの行政評価の結果を総括し、改訂版の施策体系に反映する必要があることから、市民、学識経験者、有識者で構成する「外部評価委員会」を設置し、行政評価結果の検証及び改訂版に盛り込むべき視点や方向性に関するご提言をいただきました。

- **実施期間** 平成23年9月から12月（全5回）
- **所掌事務** ①過去3年分の事務事業評価の結果を政策単位で検証し、目的達成度並びに実施手段の妥当性を判定し、今後必要とされる視点や方向性に関する提言を行うこと
②前橋市の行政評価制度のあり方について、意見を述べること
- **評価対象** 第六次前橋市総合計画の各分野から1政策ずつ、計6政策
- **委員名簿**

委員名		職名(当時)
委員長	小竹 裕人	群馬大学社会情報学部准教授
委員	中川 顯一郎	弁護士
委員	羽鳥 真希恵	前橋市農業協同組合荒砥支所職員
委員	平形 敦史	前橋商工会議所青年部事業委員会委員長
委員	渡辺 照子	TERUコミュニケーションステージ代表

- **評価結果** 《第六次前橋市総合計画に対する政策評価》

章・節	政策	達成度	妥当性
第1章第3節	安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します	順調	妥当
第2章第2節	環境への負荷の少ない循環型社会を形成します	順調	妥当
第3章第1節	市民の健康を増進します	良好	妥当
第4章第5節	地域の特性を活かした観光・物産を振興します	順調	要変更
第5章第4節	個性と創造性あふれる地域文化を振興します	順調	妥当
第6章第1節	市民力・地域力を活かした市政を運営します	順調	妥当

《主な提言》

- ・各政策の指標は、アウトプット（結果）ではなく、アウトカム（成果）を重視すべき。
- ・政策の実施手段は概ね妥当であるが、若干違和感のある施策が散見される。改訂版（後期基本計画）では、位置付けの変更や取り組み内容に応じた分割等を検討されたい。
- ・達成度が順調であっても、現状に満足することなく、より高い成果を挙げる工夫をされたい。

《前橋市の行政評価制度について》

- ・新規事業評価の導入や評価と予算の連動など、コンサルタントの助言を得ず、独自に制度設計している点が評価できる。
- ・既存事業の廃止を問う機能が弱い。コスト面のみならず、市民ニーズを勘案した判断ができる仕組みの構築と、外部評価機会の拡充が必要である。

▷いきいき前橋市民会議

第六次前橋市総合計画の重点施策である「生命都市推進プロジェクト」について、これまでの実績を検証するとともに、改訂版（後期基本計画）の生命都市推進プロジェクトに盛り込むべき取り組みについて、幅広いアイデアを募るため、市民、学生、各分野に関わりのある団体関係者、市職員で構成する「いきいき前橋市民会議」を設置しました。

- **実施期間** 平成23年12月から平成24年2月（全4回）
- **所掌事務** ①第六次前橋市総合計画における「生命都市推進プロジェクト」について、過去3年分の実績を評価すること
②改訂版（後期基本計画）における具体的取り組みのアイデアを提案すること
- **会議構成** 「地域特性を活用する4つのプロジェクト」ごとに4グループ（各グループ10人）
- **委員構成** 市民委員6名（うち運営協力の学生2名）、市職員4名（うち事務局1名）
※会議の運営協力を群馬大学社会情報学部・小竹裕人研究室に委託

●委員名簿

グループ	委員名	区分 ※()は、当時の所属団体
健康と医療	藤川 美代子	公募
"	石田 頼利	公募
"	梅澤 朋子（副議長）	関係団体（民生委員児童委員連絡協議会）
"	高橋 信子	関係団体（健康づくり推進協議会）
"	川瀬 真里亜	学生
"	木村 友香	学生
環境	六本木 真弓	公募
"	小竹 裕人（議長）	学識（群馬大学社会情報学部准教授）
"	横山 雄大	関係団体（水と緑の小水力発電プロジェクト）
"	長尾 俊和	関係団体（水と緑の小水力発電プロジェクト）
"	狐塚 沙也香	学生
"	関口 涼太	学生
食と農	石井 恵子	公募
"	市川 勝久	公募
"	原 与志美	公募
"	鈴木 正知	関係団体（上川淵地域づくり協議会）
"	中沢 夕紀	学生
"	手塚 駿	学生
歴史と文化	山田 操	公募
"	木村 遊	公募
"	中森 隆利	関係団体（社団法人理想の都市建設研究会）
"	黒田 桂子	関係団体（前橋中心商店街協同組合女性部）
"	三井 佑也	学生
"	中野 智美	学生

※市職員は名簿から割愛

● 評価結果及び具体的アイデア(抜粋)

《元気まえばし健康輝きプロジェクト（健康と医療）》

取り組み名	評価	評価理由
健康教育の充実	見直し	<ul style="list-style-type: none"> 健康情報の発信は、公民館報や回覧板なども活用すべき 健康増進活動は、各団体が継続的に係われる仕組みが必要
歩いて暮らせるまちづくりの推進	強化	<ul style="list-style-type: none"> 行政、地域、事業者が連携し、公共交通の効果的な活用方法や、地域の支援体制づくりを検討することが必要
総合相談支援ネットワークの整備	強化	<ul style="list-style-type: none"> 相談場所や業務内容をわかりやすく周知するなどの工夫が必要 関係機関との連携強化、迅速な対応の仕組みづくりが必要
保健・医療・福祉情報ネットワークの強化	強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域、関係団体等と行政の連携による地域課題の情報の共有化と、地域が主体となって検討を進められる体制づくりが必要
具体的アイデア	内容	
地域の支え合い体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 買い物や通院時の移動、見守りなど、地域で支えあう体制づくりの構築 地域福祉の担い手として、退職を控えた世代への積極的な働きかけ 各種団体の活動や地域の取り組みなどの積極的な発信と情報の共有化 	
交流拠点で魅力ある商品開発	<ul style="list-style-type: none"> 障害者や高齢者の雇用、生きがいづくりなどにつながる交流拠点づくり 障害者と高齢者、多様な世代の協力による農産物の加工や販売方法の研究 開発した商品のブランド化による利益の確保と地域への還元 	

《人と自然にやさしい前橋ライフ実践プロジェクト（環境）》

取り組み名	評価	評価理由
近郊ツーリズムの推進	強化	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が増えていることから、今後も強化することが必要 農業体験や赤城山など、それぞれの魅力をまとめて発信すべき
新エネルギー活用研究・導入促進	強化	<ul style="list-style-type: none"> 小水力発電の導入を優先的に進めることが有効 発信力強化のため、地域ごとのコンテストを実施してはどうか
具体的アイデア	内容	
新エネルギーの地産地消プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光、小水力発電の普及を市民参加で進める 新技術活用の仕組みを市民と共に検討、検証し、生み出されたエネルギーを電気自動車（EV）の充電や街路灯、非常時電源などに活用 共同住宅におけるEVのシェア（共有）やエコドライブコンテストも有効 	
赤城山埋蔵資源発掘発信プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 赤城山の資源を発掘し、発信していく方策を市民参加型で考える 中学生の合宿や年間を通じたバスツアー、観光ボランティアの養成 赤城山を舞台にした映画作成、キャラクターづくり、空から自然を見るツアー（気球やヘリコプターの活用）も有効 	

《生命力を育む食の循環プロジェクト（食と農）》

取り組み名	評価	評価理由
食をとおした健康づくり、農畜産業体験・食文化交流の促進	強化	・土に触れることで、多くのことを学ぶことができる。地域や学校の協力を得て、多くの子どもに農業体験の機会を与えてほしい
食の指導の充実	強化	・生涯を通して食生活を大切にできる人を増やせるよう、小さい頃からの食の指導を充実することが必要
食の循環システムの構築	強化	・秋穫楽市は、その場限りではなく、その後につながる工夫が必要 ・生産者の顔が見える配慮をした新たな食のイベントも有効
市民農園やコミュニティガーデンによる地域交流の促進	見直し	・多くの人が使いやすい遊休農地活用の仕組みづくりが必要 ・農地を活用した地域間交流も有効
具体的アイデア	内容	
前橋発“楽シーおいシーヘルシー農業体験”	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校単位の農業・食体験 ・勢多農高生ほか学生の学習活用 ・1泊温泉つき農業体験ツアー ・田んぼカフェ、畑レストラン 	
アイデアと実行力で“食”の上手なPR	<ul style="list-style-type: none"> ・「kid's shop」（子供の農産物販売店） ・ぐんまちゃん家の活用 ・奇抜な企画＋メディアPR ・斬新な広告（例：みなかみ町の雪山にペンギンのイラスト） 	

《未来を紡ぐ「前橋」発進プロジェクト（歴史と文化）》

取り組み名	評価	評価理由
歴史文化遺産等活用、エコミュージアムの発掘・発信	強化	・周知、PRを強化すれば、取り組みがさらに広がる ・新たに取り組み人（担い手）向けの講座も有効
街なか居住の促進、都市再生交通システムの整備	強化	・内容は理想的だが、結果が出ていない ・積極的なアプローチとさらに踏み込んだ策を仕掛けることが必要
生命都市ブランドイメージの形成・認知・維持発展	強化	・もっと前橋を好きになってもらうような取り組みが重要 ・民間との連携協力により、外部にPRできるシステムが必要
具体的アイデア	内容	
「前橋学（仮称）」の推進～目指せ前橋マスター	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所、青年会議所などと連携し、定期的に寺子屋を開催する ・地域に眠る人材を講師として、前橋について学ぶ機会を提供 ・前橋検定など「前橋ファン」獲得に向けた仕組みづくりの工夫 	
前橋型シティプロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・行政組織の見直し（シティプロモーション推進室） ・MCPL（Maebashi City Promotion Leader）養成 ・まえばしCITY エフエムなど情報発信媒体との連携強化 ・前橋ゆかりの著名人活用（前橋応援団） ・周辺都市等連携による相互の情報発信協力 	

▷ 総合計画審議会

総合計画審議会は、「前橋市総合計画審議会条例」に基づいて設置される附属機関です。市長からの諮問に応じ、第六次前橋市総合計画改訂版（素案）について延べ4回にわたるご審議をいただき、より良い計画づくりに向けた答申をいただきました。

● 審議会委員

委 員 名		職名・所属等(当時)
委員	安保 博史	群馬県立女子大学 教授
委員	大澤 憲一	前橋市農業協同組合 組合長
委員	岡田 義太郎	前橋市行政自治委員会 会長
委員	川瀬 真里亜	公募
副会長	小竹 裕人	群馬大学 准教授
委員	佐藤 智子	群馬県女性保育園長会 事務局長
委員	下田 祐紀夫	前橋工科大学 教授
委員	鈴木 知足	公募
会長	曾我 孝之	前橋商工会議所 会頭
委員	樽井 哲	前橋市文化協会 会長
委員	千吉良 功	公募
委員	豊嶋 孝男	前橋市消防団 団長
委員	中島 かつ江	前橋市社会福祉協議会 理事
委員	永田 美代子	群馬建築士会女性委員会 副委員長
委員	中屋 光雄	前橋市医師会 会長
委員	西薊 大実	群馬大学 教授
委員	原澤 稲子	前橋市小中養護学校PTA連合会 母親代表委員長
委員	笛木 京子	環境カウンセラーズぐんま
委員	松井 淳	前橋工科大学 教授
委員	由田 進	群馬県 中部県民局長

● 審議経過

年 月 日	審議内容等
第1回 平成 24 年 10 月 26 日	委嘱状交付、会長等選任、市長から総合計画改訂版(素案)の諮問序章、基本構想、後期基本計画第1編・第2編の説明
第2回 平成 24 年 11 月 9 日	序章、基本構想、後期基本計画第1編・第2編の審議 後期基本計画第3編・第4編の説明
第3回 平成 24 年 11 月 28 日	後期基本計画第3編・第4編の審議 答申書の取りまとめ方法について
第4回 平成 24 年 12 月 21 日	答申案の審議 市長への答申

●答申(答申書)

平成24年12月21日

前橋市長 山本 龍 様

前橋市総合計画審議会
会長 曾我孝之

第六次前橋市総合計画改訂版(素案)について(答申)

平成24年10月26日付け諮問第1号で諮問のありました第六次前橋市総合計画改訂版(素案)について、当審議会で慎重に審議した結果、別紙のとおり答申します。

●答申(別紙)

第六次前橋市総合計画改訂版(素案)について(答申)

はじめに

総合計画とは、市のまちづくりの憲法のようなものです。10年を一区切りで策定するのが一般的ですが、最近では、その中間年度で計画内容を見直し、後期計画として策定し直すケースが増えていきます。

前橋市の場合も、平成20年度を初年度とする「第六次前橋市総合計画」がスタートしてちょうど5年を経過することから、今年度は後期5か年分の計画書を策定するタイミングにあたります。後期計画は、当初の計画を微調整するにとどめるのが通例ですが、昨今、前橋市を取り巻く環境が著しく変化しているため、前橋市長は、その変化に合わせて「改訂版」を策定することとし、本審議会に対して、その素案が諮問されました。

まず、この「環境変化」について考えると、旧富士見村と合併したことや、それによって「赤城山」という新たな観光資源が仲間に加わったこと、中核市への移行により「市の責任の範囲」と「自ら決めることができる分野」が拡大したこと、さらには東日本大震災という未曾有の大災害によって、われわれ市民の防災意識が高まり、大規模災害に備えることの重要性が強く認識され、安心安全へのニーズが急速に上昇したなどが挙げられます。

また、今年、民間調査会社を実施した都市ブランドランキングでは、群馬県は全国最下位となり、その県庁所在地である前橋市も低位に甘んじている状況にあります。「群馬グスティネーションキャンペーン(民間事業者と県や市町村の連携による観光キャンペーン)」や、キャンペーン終了後の「アフターDC」、民間旅行会社とタイアップした誘客策など、効果的な取り組みが徐々に進められてきてはいますが、「県都前橋」のブランドイメージの改善・浸透が早急に求められている点についても、策定当時とは異なる社会背景だといえます。

このような状況を考えると、当初計画を微調整するのではなく、時代の変化に応じた「改訂版」とすることが望ましいと考えられます。

なお、見直しにあたっては、今後の少子高齢化によって社会保障負担が増加することや、合併特例措置の終了によって前橋市の自主財源が縮小すること、また、高齢者のモビリティ(活動の範囲や頻度)が減少すること、そして「新たな公」の担い手としてのNPOや市民団体の活動が活発化し、その活動領域が拡大していることなどを考慮する必要があります。

加えて、改訂版の詳細版となる「実施計画」を策定する際には、ハード・ソフトを問わず打ち上げ花火的な事業よりも、地道で、地域の足腰が強くなるような事業を重視すること、また、慣例的で硬直的な補助金の配分を継続するのではなく、市民が積極的にまちづくりに関わることのできる環境づくりを行うこと、その中で、やる気のある市民活動が報われるような仕組みを作ることも必須と考えられます。

以上の点に留意し、今後の計画案づくりを進めていただくよう要望します。

結びに、本審議会では、一市民の立場から、あるいは専門的な見地から、素案内容について活発に幅広い観点から議論を交わしました。以下に、主な提言を記載しますので、計画案に反映していただくとともに、そのほかの意見・提言等は、別添の「審議結果報告書」に取りまとめましたので、今後策定する実施計画や、実際に施策を推進していく中で十分に尊重していただきますようお願いいたします。

計画全体の構成について

- ・行政用語は極力一般的な用語に置き換え、行間隔や文字の大きさなど、全体のバランスを考慮した構成に努められたい。
- ・グラフ等の図表については、タイトル・解説文等を記載するなど、見やすさ・分かりやすさを重視した計画書となるよう工夫されたい。
- ・現行計画の中間年での改訂であるため、前期5年間の成果や進捗状況などを盛り込まれたい。
- ・文化都市にふさわしく、「デザイン」を重視したまちづくりに取り組まれたい。

I 序章

1 第六次前橋市総合計画の改訂について

(1) 改訂版策定の趣旨

- ・「社会経済情勢を改めて展望する」という表現は、経済に特化したイメージが強いため、「社会情勢」に改められたい。

2 策定の背景

(2) 本市の現状分析

(本市の地域特性)

- ・本市ならではの地域特性として、「県庁所在地」、「充実した高速道路網」、「自然災害に対する強さ」、「豊富な温泉」なども強調されたい。

(本市の将来見通し)

- ・人口の現状と見通しについて、推計結果に関する考察を加えられたい。
- ・産業の現状について、付加価値額ベースの特化係数は、製造業に限定した内容であるため、タイトルを改めるとともに、本市の特徴である農業についても触れられたい。
- ・今後の財政見通しについて、表全体が小さく見づらいうえ、専門用語が多く分かりにくいため、図表の簡略化や解説文を追加するなど工夫されたい。

II 基本構想

2 施策の大綱

- ・本ページのみ、全体が傾斜するデザインになっており、読みにくいため改善されたい。

III 後期基本計画

第1編 将来都市像の実現に向けて

第1章 生命都市の基本的な考え方

- ・本市の「栄養」が地域特性を指すのか、地域特性と市民一人ひとりの力の双方を指すのか分かりにくく、「栄養」と「栄養素」を使い分ける意味が見出せないため、再考されたい。
- ・「都市の持続可能な成長」という表現が分かりにくいため、改められたい。

第2章 都市のグランドデザイン

(基本的な考え方)

- ・都市のグランドデザインを「都市デザインの方向性」と定義しているが、ページ下部の「2つの理念」との整合性が不明瞭であるため、再考されたい。
- ・都市計画のあり方について、総合計画が目指す都市の姿（健康都市、環境都市、高齢者にやさしい都市など）との整合を図るとともに、旧市内の見直しに努められたい。

(将来都市構造)

- ・「都心核」や「地域核」は、一般的にイメージしにくい用語であるため、将来都市構造図の略図等を併記されたい。
- ・「鉄道駅」、「軌道駅」、「軌道交通軸」を一般的な用語に統一されたい。
- ・「都市軸」について、都市内における位置付けの解説だけでなく、都市の成熟に向けてどのように活用するのか記載されたい。

- ・将来都市構造図の都市軸は、直線ではなく現実に近い形に修正するとともに、矢印を市外だけではなく市内方向にも加えられたい。

第2編 生命都市推進プロジェクト

生命都市推進プロジェクトについて

- ・プロジェクトとプログラムの相関関係が分かりにくいため、全体構成を説明する図表の中に、各プログラム名を盛り込まれたい。

(1) 県都まえばし育成プロジェクト

- ・「本市で学び育った子どもが本市で活躍できる環境を整える」という記載があるが、市内で活躍するだけでなく、どこでも活躍できる人材を育成する視点も加えられたい。

(2) ふれあいコミュニティ創造プロジェクト

- ・共助・互助の説明を加えるとともに、公助との連携・協働についても言及されたい。

(3) クリーンシティ実現プロジェクト

- ・概要説明文の中で、災害に強い安全・安心な風土であることを強調し、自然力活用プログラムの文章から「地震などの」の文言を削除されたい。
- ・「市有施設を中心とした事業系ごみ」という記載が分かりにくいため、改められたい。

(4) まえばし産業成長プロジェクト

- ・農業は人々の暮らしの基本であることから、多くの子どもたちが農業を体験できるよう、前橋ならではの取り組みを実施されたい。

(5) まえばしクオリティ向上プロジェクト

- ・本市には、生糸・製糸に関連する歴史的・文化的遺産が数多く残存するため、富岡製糸場の世界遺産登録に向けた動きにあわせて「糸のまち・前橋」の積極的な発信に取り組まれたい。
- ・都市ブランド形成プログラムについて、具体的内容が伝わりにくいため、「T-1グランプリ」等の具体名称や図表等を記載し、イメージの喚起に努められたい。

第3編 分野別計画

全体構成

- ・各節の成果指標について、目標値の根拠を示すとともに、数値が大きいほうが良いのか、小さいほうが良いのか判断に迷うものは、別の指標に置き換えられたい。
- ・総合計画とは別に、分野別の詳細計画がある施策については、その旨を記載するとともに、他のページと関連のある施策については、その旨を説明されたい。

第1章 快適で暮らしやすいまちづくり

(第1節 良好な都市基盤を整備します)

- ・現状と課題の中で「北関東の中核都市」という記載があるが、中核市と混同する表現であるため、「中核的な都市」のように改められたい。

(第3節 暮らしに大切なライフラインを強化します)

- ・「良質な水」の記載が散見されており、誰もが実感している事実ではあるが、これを客観的に示せるようなデータや図表等を盛り込まれたい。

(第4節 安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します)

- ・現状と課題に記載の「危機管理体制を構築する」は、「再構築する」に改め、施策展開にあたっては、本人・家族・地域住民の危機管理意識の高揚に取り組まれたい。
- ・指標「自治会単位での自主防犯会の組織件数」は、「組織率」に置き換えられたい。

第2章 恵み豊かな自然と共生するまちづくり

(第1節 良好な環境を保全・創造します)

- ・政策の方針の中で「さまざまな団体が主体的に取り組む環境保全活動を支援する」という記載があるが、施策の体系における位置付けが不明瞭であるため、再考されたい。
- ・指標「野鳥観察会で観察することのできる野鳥の種類」は、総合計画の指標としては違和感があるので、他の指標に置き換えられたい。

(第2節 環境への負荷の少ない循環型社会を形成します)

- ・ごみの減量化が全国よりも低い水準であることをデータで示すとともに、ごみの適正処理が排出の段階から始まるのか、収集の段階から始まるのか、整合を図られたい。

第3章 個々が光り輝くまちづくり

(第1節 市民の健康を増進します)

- ・現状と課題に記載の「医療給付費の増加」は、すでに社会問題として顕在化しているため、表現を改めるとともに、「健康診査」、「ヒブ」の用語解説を追加されたい。
- ・指標「夜間急病診療所の受診者数」は、受診者数の増加が成果であるとは考えられないため、他の指標に置き換えられたい。

(第2節 安心して子育てできる環境を整備します)

- ・指標「児童虐待家庭への対応件数」について、児童虐待の問題を一つでも多く解消するという目的は理解できるが、虐待自体は少ないほうが望ましいため、他の指標に置き換えられたい。

(第3節 生き生きと暮らせる高齢社会を実現します)

- ・前橋市には5つの老人福祉センターがあり、施設利用を楽しみにしているお年寄りも多いことから、施設の充実や活性化等について言及されたい。

(第4節 障害のある人の自立を支援します)

- ・「障害」を「障がい」の表記に改めるとともに、政策の方針や施策の体系に記載された内容と図表「相談支援体制のイメージ」が整合されていないと感じられるため、再考されたい。
- ・指標「就労移行支援の実利用者数」は、利用者数ではなく、実際に就労に結びついた人数のほうがふさわしいと考えられるため、再考されたい。

(第5節 共に支えあう福祉社会を実現します)

- ・政策の方針に記載の「就労に必要な総合的支援」について、施策の体系の中で読み取れないため、再考されたい。

第4章 地域資源を活かした活力あるまちづくり

(第1節 活気ある産業経済活動を促進します)

- ・「企業誘致」については、本市の充実した高速交通網・災害に強い地域特性・ものづくりの基盤等を生かし、医療機器・医薬品メーカーや、物流センター等を重点的に誘致されたい。
- ・指標のうち、補助や支援事業の件数は行政側の実績でしかないため、補助や支援を受けて、企業や商店がどう変化したかを指標化されたい。

(第2節 中心市街地のにぎわいを創出します)

- ・これまでとは違う角度から中心市街地を捉え、「住みたい」と思えるまちづくりを進め、街なかの人口増加を図るとともに、指標に「街なかの居住者数」を加えられたい。

(第3節 力強い農業を推進します)

- ・遊休農地の解消にあたっては、地域コミュニティの再生や健康増進、移住促進など、多様な効用が期待される市民農園の活用について検討されたい。

(第4節 地域の特性を活かした「前橋観光」を振興します)

- ・本市に根付く「糸の街」や「朔太郎」などを活かした観光施策を立案するとともに、学会や会議などのコンベンション来訪者に対するホスピタリティを充実されたい。

第5章 豊かな心を育むまちづくり

(第1節 豊かな人間性を培う社会教育を推進します)

- ・「生涯学習」は自己実現の手段として大変有効であるが、「個」の視点が強いと、今後は、社会への貢献や他との協調性などを含めた「社会教育」の視点を重視されたい。

(第2節 共に学び合い考える力を育む学校教育を推進します)

- ・政策の方針に記載の「知・特・体」を「知・徳・体」に改め、解説を加えられたい。
- ・政策の方針に記載の「子どもたちの『生きる力』を育む」と「子どもたちの将来に対する夢を育む」の違いが分かりにくいと、再考されたい。
- ・指標「生徒の部活動入部率」は、「市立前橋高校の」という記載を加えられたい。

(第3節 元気づくりのスポーツを振興します)

- ・他の節と比べて、現状と課題の文章量が少ないため、運動不足の改善や日常的なスポーツの習慣づけ、手軽にスポーツに取り組める場所の確保などの課題を追加されたい。
- ・施策の体系に記載の「地域に根ざしたスポーツ文化の醸成」については、「赤城山ヒルクライム」のようなスポーツと観光を結びつけた取り組みを重視されたい。

第6章 市民協働のまちづくり

(第1節 市民力・地域力を活かした市政を運営します)

- ・政策の方針に記載の「個の尊厳」については、昨今の社会的背景として個が強すぎる傾向が見受けられるため、社会性や協調性等を考慮した表現を検討されたい。

(第2節 経営感覚を持った行財政運営を進めます)

- ・行財政運営における「費用対効果」、「政策のプライオリティ（優先順位）」を考慮するとともに、財政見通しと一致するよう努められたい。

▷パブリックコメント

パブリックコメント制度は、市の基本的な計画等の策定にあたり、事前に内容を公表して意見を求め、提出された意見を踏まえて計画等の意思決定をするとともに、提出された意見とそれに対する市の考え方を公表する一連の手続きのことです。今回、第六次前橋市総合計画の改訂にあたり、改訂版（素案）を公表し、幅広くご意見を募集するとともに、いただいたご意見・ご提案の計画内容への反映に努めました。

- **募集期間** 平成24年12月3日から28日
- **募集方法** 改訂版（素案）を市ホームページ（電子ファイル）、市庁舎・各支所・市民サービスセンター等（冊子）で公表し、意見提出用紙を持参・郵送・FAX・メールにて提出
- **募集結果** 意見提出者数 8名
提出意見総数 25件

〔意見内訳〕

分野		意見数
総合計画全般		8件
序章		3件
基本構想		2件
後期基本計画	第1編 将来都市像の実現に向けて	2件
	第2編 生命都市推進プロジェクト	4件
	第3編 分野別計画	6件
	第3章 健康・福祉分野	(2件)
	第4章 産業活力分野	(1件)
	第5章 教育・文化分野	(2件)
	第6章 協働・行政経営分野	(1件)

▷市民アンケート

市民アンケート調査は、市民との協働によるまちづくりを進めるため、多様化する市民の意識や要望などを的確に把握し、市民ニーズを市政に反映させるために実施しています。第六次前橋市総合計画改訂版の策定にあたっては、この調査結果を計画策定の基礎資料として活用し、市民意識に対応した計画づくりに努めました。

●調査概要

- (1) 調査地域 前橋市全域
- (2) 調査対象 15歳以上の市民
- (3) 調査対象者数 5,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為に抽出
- (5) 調査方法 返信用封筒を同封した質問票送付によるアンケート調査方式
- (6) 調査基準日 平成23年10月1日
- (6) 調査期間 平成23年10月1日から21日

●回収結果

回収率 62.7% (回収者数 3,137人)

●活用した調査内容

全11調査項目のうち、「暮らしやすさについて」及び「前橋市の政策について」を活用

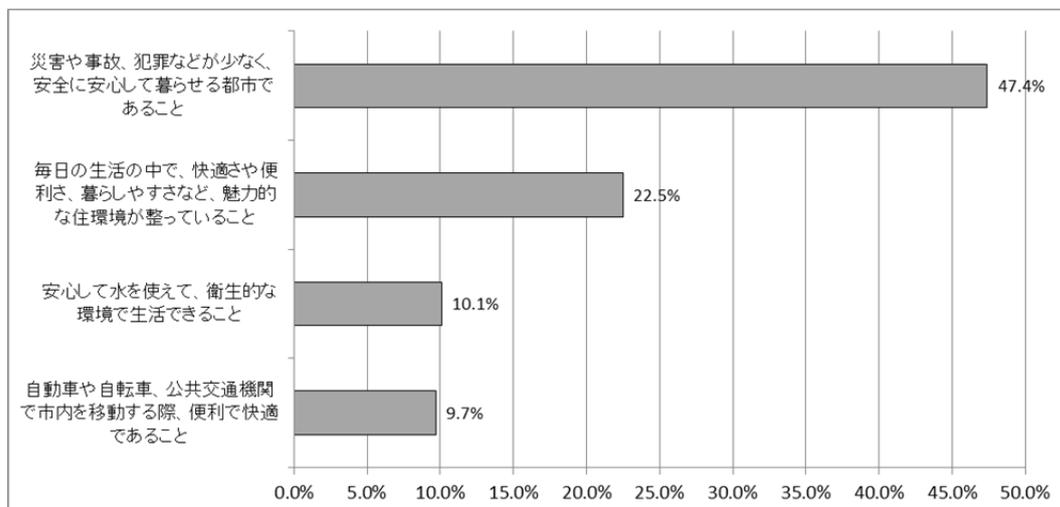
※暮らしやすさについて

- 「前橋市は暮らしやすいところだと思うか」、「市の行政サービス全体に満足しているか」について調査
- 調査結果は、序章「2 策定の背景・(3)市民ニーズの把握」(P11)に掲載

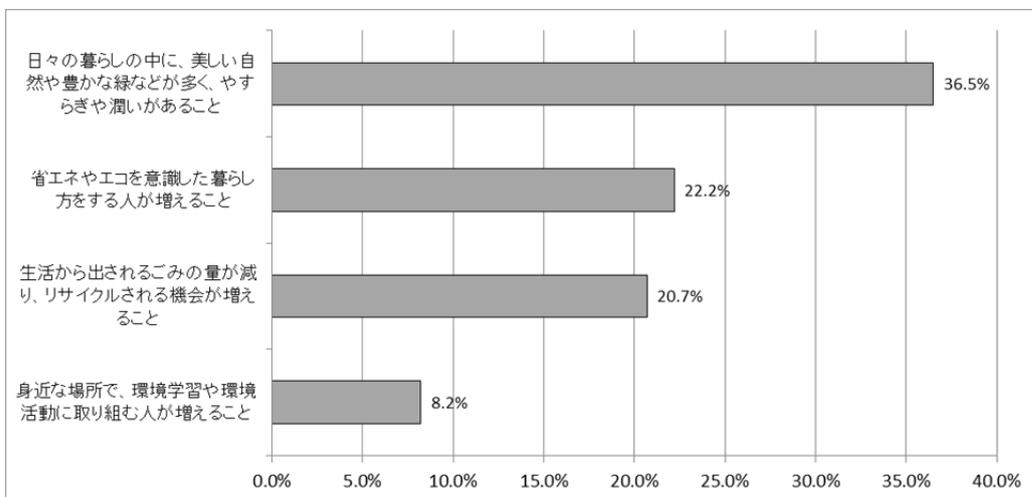
※前橋市の政策について

- 第六次前橋市総合計画改訂版に掲載されている全23政策に関して、「それぞれの政策に対する実感」と、「将来的に大切だと思う政策」について調査
- このうち、「それぞれの政策に対する実感」の調査結果は、後期基本計画「第3編分野別計画」(P47～)の各節に掲載し、下記に「将来的に大切だと思う政策」の調査結果を掲載

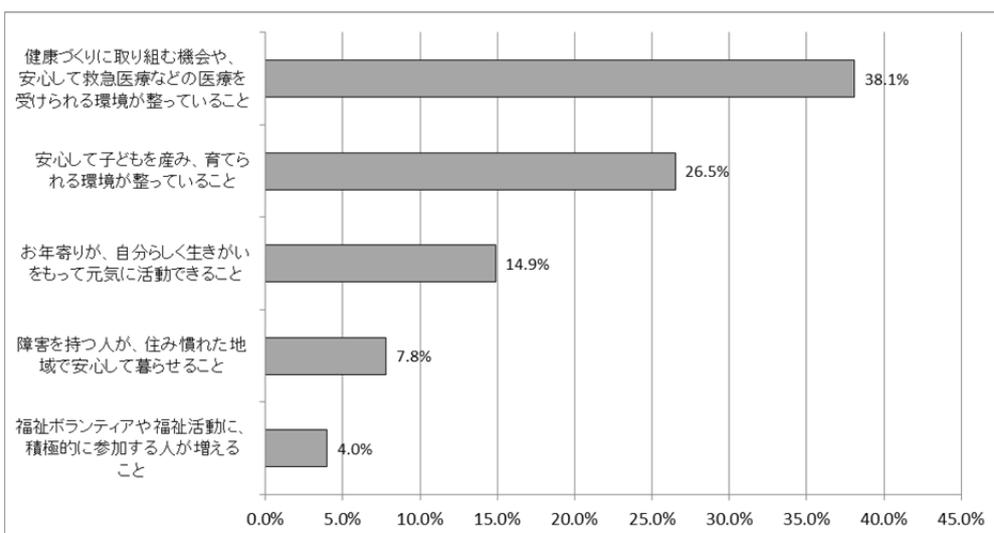
■都市基盤や安全安心分野で将来的に大切だと思う政策



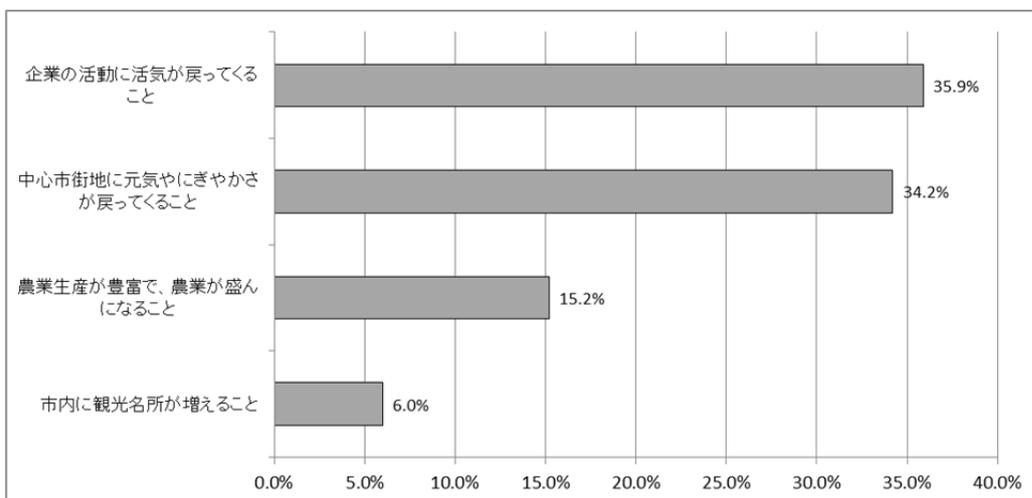
■環境分野で将来的に大切だと思う政策



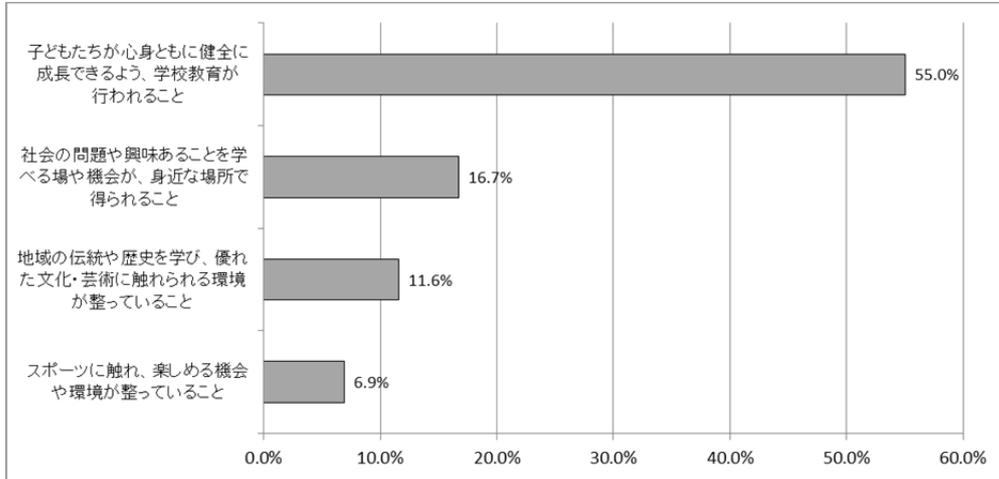
■健康・福祉分野で将来的に大切だと思う政策



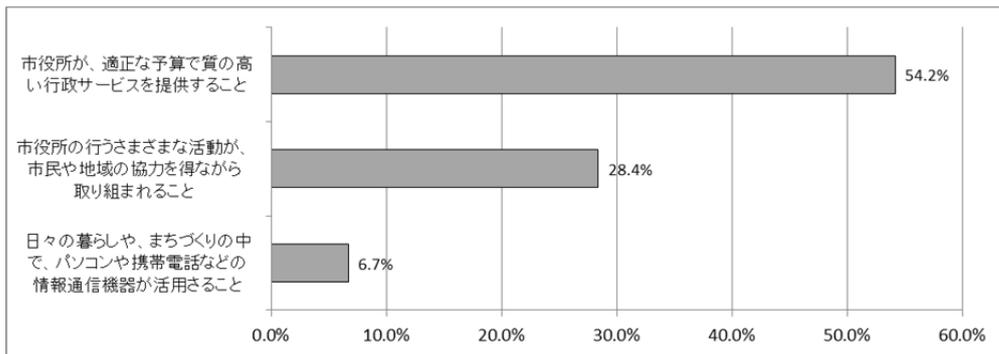
■産業分野で将来的に大切だと思う政策



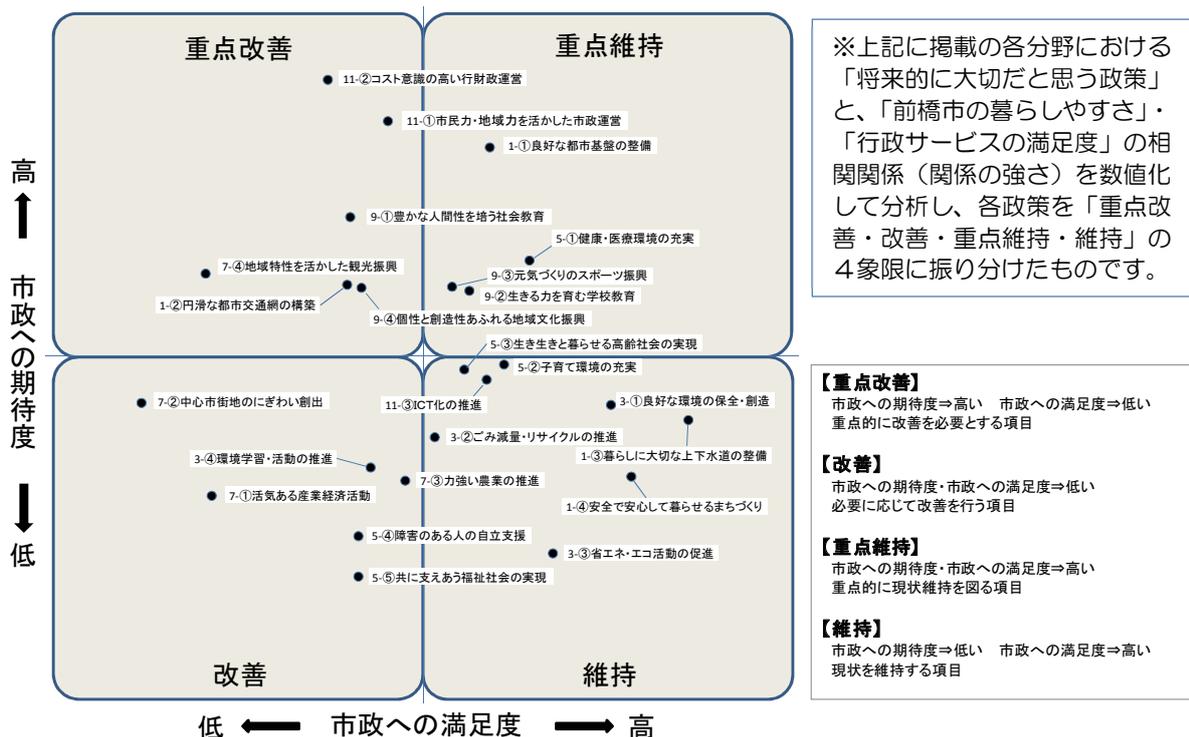
■教育・文化分野で将来的に大切だと思う政策



■行政分野で将来的に大切だと思う政策



■ポートフォリオ分析



3 補足資料

▶ 前期基本計画・指標一覧（参考）

参考資料として、前期基本計画第3編の分野別計画で設定した指標を掲載します。

改訂版では、前期指標を継承することを基本に策定作業を進めてきましたが、外部評価委員会や審議会等から「指標を全面的に見直すことが望ましい」との指摘がありましたので、後期基本計画では、前期指標の置き換え・変更や、新規指標の追加をしています。

● 第1章

指標名 ※は、後期での取り扱い	現状値	目標値 (H29)	指標の説明
市街地整備率 ※変更	54.4% (H18)	65%	土地区画整理などによる面的整備の割合で、本市の土地利用が計画的に整備されているかどうかを測る指標です。
景観が充実していると思っている市民の割合 ※削除	48.9% (H19)	60%	景観についての市民満足度を表す数値で、本市の景観形成の取り組みが充実しているかどうかを測る指標です。
周辺がバリアフリー化されている割合 ※削除	46.1% (H17)	61%	駅や公共施設周辺道路のバリアフリー化に対する市民満足度を表す数値で、安全や安心に配慮した道路・施設整備の充実を測る指標です。
汚水処理人口普及率 ※継続	81.8% (H18)	94%	公共下水道のほか、農業集落排水・合併処理浄化槽など、本市の総合的な汚水処理の普及率を測る指標です。
国道50号渋滞箇所の平日混雑時平均旅行速度 ※変更	26.8km/h (H17)	35km/h	道路混雑時の平均移動速度を表す数値で、道路の渋滞状況を測る指標です。
道路整備が充実していると思っている市民の割合 ※削除	54.5% (H19)	68%	道路環境に対する市民満足度を表す数値で、本市の道路整備が充実しているかどうかを測る指標です。
公共交通が充実していると思っている市民の割合 ※変更	27.4% (H19)	33%	公共交通に対する市民満足度を表す数値で、本市の公共交通の利便性を測る指標です。
安全で安心して暮らせるとしている市民の割合 ※削除	39.2% (H19)	68%	安全・安心に対する市民満足度を表す数値で、本市の暮らしやすさを測る指標です。
安全ひろげたい活動組織の件数 (252自治会中の設置件数) ※変更	225件 (H19)	252件	自主的な防犯活動に取り組む自治会の数から、地域における安全・安心の充実を測る指標です。
交通事故件数 ※変更	4,478件/年 (H18)	4,000件/年	日常的な危険である交通事故件数の推移から、安全な暮らしを測る指標です。

● 第2章

指標名 ※は、後期での取り扱い	現状値	目標値 (H29)	指標の説明
都市公園の整備面積（一人当たり公園面積） ※継続	9.99㎡/人 (H18)	13.50㎡/人	都市公園の整備面積を示す全国的な指標で、都市の公園・緑地整備が進んでいるかどうか、その進展度を測る指標です。
環境基準（河川）を達成した地点の割合 ※継続	80.6% (H18)	100%	環境基本法で定められた水質汚濁の基準値です。基準の達成により、人の健康が保護され、生活環境が保全されていることを表す指標です。
環境基準（騒音）を達成した割合 ※削除	91.8% (H18)	100%	環境基本法で定められた騒音の基準値です。基準の達成により、人の健康が保護され、生活環境が保全されていることを表す指標です。

一人一日当りのごみ排出量 ※変更	1,072g (H18)	890g	環境負荷を減らすための基礎的な数値であり、循環型社会形成に向けた取り組みが進んでいることを表す指標です。
ごみ再生利用率 ※継続	15.1% (H18)	25%	市民一人ひとりの生活に密着した数値であり、循環型社会形成に向けた取り組みが進んでいることを表す指標です。
太陽光発電設置費補助金交付件数（累計） ※変更	330 件 (H18)	2,000 件	環境保護についての意識向上とともに、新エネルギーを利用するための設備導入が進んでいることを表す指標です。
自然環境が保全されていると感じている市民の割合 ※削除	37.6% (H19)	50%	環境保全についての市民満足度を把握し、その結果から、本市の自然環境が保全されているかどうかを測る指標です。
生垣づくり奨励事業対象件数及び整備延長（累計） ※削除	985 件 15,088m (H18)	1,180 件 18,000m	市民がつくる環境保全活動の広がりを表す指標です。

●第3章

指標名 ※は、後期での取り扱い	現状値	目標値 (H29)	指標の説明
健康づくり施策に満足している市民の割合 ※削除	56.4% (H19)	65%	健康づくりに対する市民満足度を表す数値で、本市が取り組む健康施策の充実を測る指標です。
特定健康診査を受けている人の割合 ※削除	31.7% (H18)	65%	国民健康保険の被保険者等を対象に実施する健康診査等の受診率から、生活習慣病などの予防対策に向けた取り組みの成果を測る指標です。
夜間や休日などの救急医療体制が整っていると思っている人の割合 ※削除	42.0% (H19)	65%	救急診療体制の整備により、いつでも安心して医療が受けられる環境の充実を測る指標です。
特別保育事業実施数 ※削除	71 事業 (H19)	91 事業	特別保育事業実施数から、地域における子育て支援サービスの充実を測る指標です。
放課後児童クラブ数 ※削除	35 クラブ (H19)	設置 42 クラブ 拡充 10 クラブ	小学校（現在 46 校）に対する放課後児童クラブ数の充足状況で、地域で安心して子育てをできる環境整備に向けた取り組みが進んでいることを表す指標です。
ファミリーサポートセンター事業の利用件数 ※削除	3,521 件 (H18)	4,000 件	子育ての相互援助活動の状況により、地域ぐるみで安心して子育てできる環境の充実を測る指標です。
高齢者に占める要介護認定者の割合 ※継続	14.91% (H18)	18.04%	高齢者に占める要介護認定者の割合から、高齢者が、生きがいを持って、自立した生活を送っている割合の進展度を測る指標です。
介護サービス利用者にも占める居宅サービス利用者の割合 ※継続	77.13% (H18)	82.19%	介護サービス利用者にも占める居宅サービス利用者の割合から、利用者が、住み慣れた地域で安心して暮らしている割合の進展度を測る指標です。
身体障害者手帳交付者のうち、施設に入所している人の割合 ※削除	1.05% (H18)	0.5%	施設に入所している身体障害者の割合から、自立し、地域生活へ移行した割合の進展度を測る指標です。
知的障害者療育手帳交付者のうち、施設に入所している人の割合 ※削除	16.56% (H18)	10.0%	施設に入所している知的障害者の割合から、自立し、地域生活へ移行した割合の進展度を測る指標です。
退院可能精神障害者数 ※削除	189 人 (H17)	79 人	受入れ条件が整えば退院可能な精神障害者の人数で、地域生活の移行に向けた取り組みが進んでいることを測る指標です。

ふれあい・いきいきサロン登録数 ※変更	94 団体 (H19)	250 団体	サロン登録数から、地域住民による地域福祉活動の充実を測る指標です。
就労支援対象者新規就労率 ※変更	25% (H18)	30%	就労支援による新規就労率から、生活保護世帯の自立助長の促進を測る指標です。

●第4章

指標名 ※は、後期での取り扱い	現状値	目標値 (H29)	指標の説明
従業員一人当たりの年間商品販売額 ※削除	6,414 万円 (H16)	6,500 万円	市内卸売・小売業全体における安定的な経営の促進につながる指標です。
従業員一人当たりの製造品出荷額等 ※変更	2,816 万円 (H17)	2,900 万円	市内製造業全体の生産性や効率性を表す指標です。
雇用者に対する臨時雇用者（嘱託、パート、アルバイトなど）の割合 ※削除	34.59% (H18)	25%	雇用者に対する臨時雇用者の割合から、働く意欲ある人たちが、安定的に雇用されている環境が整備されている状況を表す指標です。
小売業商店数 ※削除	3,525 店 (H16)	3,700 店	市内で開業の小売商店数により、商業地のにぎわいを測る指標です。
中心市街地における通行量 ※変更	21,289 人 (H19)	37,000 人	中心市街地における通行量は、まちのにぎわいを示す指標です。
農畜産物ブランド数 ※変更	1 ブランド (H18)	7 ブランド	前橋産農畜産物のブランド化が進んでいることを表す指標です。
認定農業者数 ※継続	519 経営体 (H18)	550 経営体	農業生産に中核的役割を果たす認定農業者数から、意欲と能力のある担い手を目指す農業者の状況を表す指標です。
農業の担い手に集積される農地面積 ※変更	2,716ha (H18)	2,900ha	農業経営が効率的かつ安定的に営まれている状況を表す指標です。
観光客年間入込数 ※変更	7,698 千人 (H18)	8,949 千人	本市の魅力を発信し、信頼・定着させることにより、観光客の誘致拡大を測る指標です。

●第5章

指標名 ※は、後期での取り扱い	現状値	目標値 (H29)	指標の説明
公民館利用者数 ※変更	626,111 人 (H18)	730,000 人	各種講座や学習活動等で公民館を利用した人数で、学習の活動機会の充実を測る指標です。
のびゆくこどものつどいに参画している中学生の数 ※変更	1,418 人 (H18)	2,300 人	青少年活動の活発化と青少年の地域貢献を測る指標です。
図書館利用者数 ※削除 利用冊数 ※継続	520,892 人 1,911,638 冊 (H18)	648,000 人 2,377,000 冊	市立図書館と公民館図書室の利用状況で、情報の提供や学習活動支援などの図書サービスの利用状況を測る指標です。
学校評価にかかわる保護者等アンケート（A評価の割合） ※変更	58.0% (H18)	80%	保護者等アンケートにより、高い評価を受けた割合で、学校組織や教育活動の充実を測る指標です。

充実した高校生活を送っている生徒の割合（市立前橋高等学校） ※変更	62.7% (H18)	80%	高校生活に対する生徒の満足度を表す数値で、高校生活が充実しているかどうかを測る指標です。
公開講座参加者数（前橋工科大学） ※削除	865人 (H18)	1,200人	地域に開かれた大学として、大学の持つ知的資源を地域の企業者、市民等へ広く公開し、地域へ貢献していることを表す指標です。
スポーツ施設利用者数 ※変更	920,229人 (H18)	1,100,000人	市営のスポーツ施設を利用した人数から、生涯スポーツの充実、スポーツ環境の充実を表す指標です。
スポーツ教室参加者数 ※削除	12,020人 (H18)	15,000人	スポーツ教室に参加した人数から、市民のスポーツの振興を測る指標です。
スポーツ少年団登録者数 ※削除	3,362人 (H18)	3,500人	スポーツ少年団に登録した人数から、生涯にわたってスポーツに親しむ基礎づくりの場の振興を測る指標です。
文化芸術関連イベント参加者数 ※継続	73,000人 (H18)	79,000人	市民の多様なニーズを反映させた文化芸術事業の充実を測る指標です。
文化財愛護団体数 ※変更	61団体 (H18)	65団体	歴史学習団体、民族郷土芸能団体の合計数で、文化財の保存と活用の充実を測る指標です。
国際交流協会のボランティア登録者数 ※継続	493人 (H18)	600人	国際社会で活躍できる人づくりと、国際交流の機会の充実を測る指標です。

●第6章

指標名 ※は、後期での取り扱い	現状値	目標値 (H29)	指標の説明
市民によるまちづくり活動数 ※削除	12事業 (H19)	100事業	地域課題の解決に向けた市民の主体的な活動件数から、協働型社会へ向けた取り組みの充実度を測る指標です。
パブリックコメント1案件当たりの意見提出者数 ※削除	3人 (H18)	30人	パブリックコメントの実施は、市民と行政が、情報を共有するもので、意見提出者の推移から、市政に対する関心の高さを測る指標です。
審議会等女性委員の割合 ※削除	21.8% (H19.4.1)	40%	男女共同参画基本計画でも基本的方向として位置づけられている数値で、市政への女性の参画を測る指標です。
市民一人当たりの市債残高 ※継続	43.1万円 (H18末)	39.7万円	市債（市の借金）残高の推移から、後年度負担や市行財政運営のコスト意識の向上度並びに財政の健全化を測る指標です。
市税の収納率 ※削除	91.2% (H18末)	94.1%	市税の収納状況を表す数値で、財政運営が適正に行われているかどうかを測る指標です。
職員数の削減率 ※変更	—	6%	中核市移行後の職員数の削減目標で、財政運営上のコスト削減と、コンパクトな行財政運営を表す指標です。
まえばしSNS登録コミュニティ数 ※削除	185 (H18末)	1,300	ICTを利用した地域活力の向上を測る指標です。
ICTの活用による行政サービスの高度化に関する満足度 ※削除	30.9% (H19)	60%	行政サービスの高度化に対する市民満足度を表す数値で、ICTが市民・行政の双方向ツールとして役立っているかどうかを測る指標です。
統合型GIS活用業務数 ※削除	51業務 (H18末)	120業務	GISを活用した業務数の推移を表す数値で、ICTを活用した業務改革の進展を測る指標です。

▶ 各部門の個別分野計画

第六次前橋市総合計画改訂版を市全体の上位計画とし、それを支えるものとして各部門にそれぞれの観点からとらえた個別分野計画があります。



第六次前橋市総合計画改訂版

平成 25 年 3 月

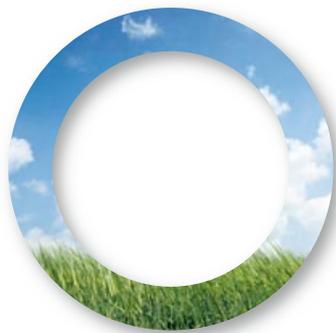
■発行 前橋市

■編集 前橋市政策部政策推進課

〒371-8601 前橋市大手町二丁目 12 番 1 号

TEL 027-224-1111

■印刷 株式会社ナミ印刷



前橋市